

■ 一般選抜入学試験 出題意図（科目別アドバイス） ■

【外国語（英語）】

≪長文総合問題の攻略法と文法問題対策≫

本学では全ての外国語試験にマークセンス方式が導入されているため、和訳等の記述式問題は出題されません。問題形式に関しては、長文総合問題 2 題（約 70%）、文法問題 2 題（約 30%）が基本であり、長文は平均して 600～700 語前後となっています。なお、語彙レベルは高校までの学習範囲を大きく超えないため、特別難解な単語を覚える必要はないでしょう。特に英語の得点が重視される学科では、制限時間内に解答できるよう、時間配分にも注意する必要があります。

長文総合問題では、英文全体、さらには段落ごとの内容の的確な理解が要求されます。内容合致問題では、当該の英文に含まれる全ての単語が理解できなくとも、その英文の周辺や問題文の中にヒントが含まれていることもあるため、熟読して内容を正確に把握し、解答してください。また、長文の内容は、エッセイ、時事的な話題、文学的な文章など、多岐にわたるため、普段から様々な話題の英文を読んでおくことが望ましいでしょう。

文法問題は、奇をてらわないオーソドックスなものが多いため、一般的な文法的知識に精通していることが肝心です。年度によっては会話表現に関する問題が出題されることもあるので、口語的な言い回しにも慣れておきましょう。

【現代文（近代以降の文章）】

大学生としてどの専攻でも必要とされる基礎的能力は、論理的思考能力である。それは論理的に書かれた文章を正確に読解し、そこから得られた知見を整理統合して自分の考えや意見を創出し、それを論理的な構成の下に文章として表現するという一連の作業を全て可能とする能力である。現代文科目では人文・社会・自然科学の領域から現代日本語で書かれた論理的な文章を出題し、それを正確に読解する能力を試験する。そこでは必然的に現代の標準的な日本語の知識や運用能力も問われることになる。また選択肢は本文を書き換えており、それを読解して本文の記述に整合させるという作業を通じて、読解力だけではなく思考力も問うことが出題の意図である。

【古文】

古典を読むために必要な文語のきまりや、古典特有の語句の意味・用法・表現について理解しているかを確認しながら、古典の文章が読めているかを確かめる問題を設けている。

【漢文】

≪文脈を押さえよう≫

-文章の種類-

漢文では、120 字から 200 字程度の文章を読んで、述べられている内容を理解することが求められます。史

伝、随筆、時に評論文などから出題されます。種類によって、読解のポイントが筆者の主張にあるのか、あるいは人物の行動 や心情の推移にあるのか、など変わってきますが、内容を把握し、理解することが重要です。

-学習の方法-

設問には、①単語の意味や句法、訓読 ②現代語訳、解釈 ③要旨を問う等があります。単語や句法については、本事項を押さえておきましょう。教科書には重要な作品 が収められており、また、使われている単語や句法にも重要なものがたくさん あります。その内容に精通することは、特に実力向上につながります。以下、項目別にポイントを記します。

●語順を重視する

漢文は、語の関係を語順によって表します。同じ名詞でも述 語の前なら主語、述語の後なら目的語などに変わります。語順の種類はそう 多くなく、文法書でもはじめのほうに少ないページで簡単に説明されている ものが多いのですが、内容は重視しておきましょう。

●句法への向き合い方

漢文では、「誰が／何を／いつ／どこで／どのように／どうする」といった 基本内容を語順の法則に従って表しますが、使役や疑問、受身などのニュア ンスを表すには、特定の決まった表現を用います。この表現法を多くの場合 「句法」といいます。句法については、まず文法書で、再読文字、否定、疑 問・反語、使役、仮定などの区分を把握した上で、各区分とも基本的な型から 示されているので、順に覚えていくとよいでしょう。

特に、会話文や、筆者の主張を述べる文では様々な句法が用いられ、内容が強調される傾向があります。問題文の種類（ジャンル）と結びつけて意識するとよいでしょう。

●訓読の注意点

「将（再読する場合、「まさに～す）」や「不能（あたはず）」、「雖（いへども）」 などを含む表現を正しく訓読するためには、単独の読みを覚えるだけでなく、「どう接続して用いられるか」を含めて理解する必要があります。単語や句形 のみにとどまらず、たとえば「不能」なら「其人不能応也（そのひとこたふること あたはざるなり）」といった例文で覚えれば、「不能」への接続（連体形（+こ と））も含めて理解できることが期待できます。文の訓読や内容理解に長じるためには、個別に暗記した内容を、実際の文・ 文章を読み確認することが大切です。理論と実践を組み合わせる学習するとよいでしょう。

【生物】

本学の生物の試験は、教科書レベルの知識に基づいた問題がほとんどです。したがって、教科書の内容を十分に理解することが、もっともよい試験対策といえるでしょう。特に、教科書に太字で掲載されている重要語句については、単なる暗記ではなく、その意味をよく理解しておく必要があります。

生物の試験において出題される計算問題の多くは、基本的な四則計算で解けるものばかりです。そのため、基礎的な難易度の計算問題で練習し、正確な立式を行えるようになります。

生物は、理科の他科目と比較して文章や図表の読み取りが多い傾向にあります。そのため、限られた時間内に問題の要点を把握し、情報を整理する必要があります。時間を有効に使うためには、問題全体を見通して、解ける問題から正確に解いていくことも大切です。また、出題範囲は「生物基礎」と「生物」の全範囲であることから、大問では題材となった分野だけでなく関連分野からも出題される可能性があるため、勉強する際は、分野間の関連を意識しつつ教科書を一通り読むことから始めてみましょう。

【化学】

本学の化学の試験は、教科書レベルの知識に基づいた問題がほとんどです。したがって、「化学基礎」や「化学」の教科書をよく読み、理解し、知識を身につけることが試験対策として最も重要であることは言うまでもありません。とはいえ、教科書に書かれた事項を丸暗記するのではなく、教科書の演習問題や標準的な難度の問題集を利用し、演習を重ねることで知識の定着を確認し、活用できるようにしましょう。まずは、基本的な形式の設問を完璧に解けるようにすることを目指すとい良いでしょう。

また、計算問題も出題されるため、十分な演習を行い、すばやく正確に計算できるようにすることも重要です。「化学基礎」や「化学」に登場する計算自体は、簡単な四則計算がほとんどですが、焦っていると「自分が計算しているのは何の数値なのか」と道筋を見失ってしまうことが多いのではないのでしょうか。演習をする際には、ただ暗記した公式を用いるのではなく実験や反応式と計算式とを紐づけ、途中計算の意味を意識することで、試験本番でも生かせる力が身につくことでしょう。

【物理】

本学の物理の試験は、教科書で扱われている基本的な知識や原理に基づいて出題されます。したがって、教科書の内容を深く理解することが、最も効果的な試験対策となります。具体的な勉強方法としては、まず教科書に書かれている基本的な法則や公式を理解し、覚えることが重要です。単に公式を覚えるだけでなく、その公式がどのような物理現象を表しているのか、どのような場合に適用できるのかを理解することが大切です。物理の問題に取り組む際には、問題文の内容を図に描くことで、物理現象を具体的にイメージしやすくなります。常に図を描きながら考える習慣を身につけましょう。

試験時間については、十分に解答できるよう設定しています。落ち着いて問題に取り組み、計算ミスなどのケアレスミスをしないように注意してください。出題内容についても、複雑な計算を要する問題は避け、物理現象の本質を理解しているかを問うことを重視しています。教科書の例題や練習問題を中心に、基礎的な問題演習を繰り返し行い、各単元で扱う物理現象の原理を一つ一つ丁寧に理解していくことが大切です。

【日本史】

《大問 1-4》

高等学校における「日本史探究」の学習内容の範囲内で、日本史に対する知識・思考力・理解度を確かめることを意図するものである。科目についての出題は、高等学校における教科書を中心とした学習の範囲内としている。まずそれぞれの問題文を読ませることで日本史に対する思考力・理解度を問い、次いで設問 1～8 において、高等学校における「日本史探究」の学習内容の範囲で得られた日本史に対する知識・思考力・理解度を確かめ、出題全体への解答から、科目に求められる知識・思考力・理解度の到達度合を適正・確実に評価することを目的としている。

《大問 5※歴史総合》

大問 5 は、高等学校の必修科目「歴史総合」の範囲から出題する。歴史総合は、近代から現在にいたる世界と日本の歴史を理解し、グローバルな社会状況の展開を多面的・多角的に認識し考察することが目指されている。出題にあたっては、このような歴史総合の主旨を十全に生かすことを目指し、近現代の世界と日本の歴史を有機的に把握する思考力を問うことを意図している。

【世界史】

《大問 1-4》

世界史のうち 4 問は、高等学校「世界史探究」の学習に基づき、思考力、知識と理解力を問うことを意図している。どの問題も、出題範囲は高等学校の学習範囲を超えることはない。問題のリード文を読み込むことで、理解力、思考力を問い、それぞれの設問では、高等学校の学習範囲を超えないことを大原則として、知識に基づく理解力、応用的思考力を問う。これによって学力の諸要素の達成度を適切に評価することを意図している。高等学校の世界史学習では対象地域と時期が広範囲にわたるため、大問ごとに対象地域と時期、また主題を分散させ、偏りのない世界史の知識と理解力、思考力を問うことを意図している。

《大問 5※歴史総合》

大問 5 は、高等学校の必修科目「歴史総合」の範囲から出題する。歴史総合は、近代から現在にいたる世界と日本の歴史を理解し、グローバルな社会状況の展開を多面的・多角的に認識し考察することが目指されている。出題にあたっては、このような歴史総合の主旨を十全に生かすことを目指し、近現代の世界と日本の歴史を有機的に把握する思考力を問うことを意図している。

【公民】

«政治経済（政治）»

令和7年度の入試では、憲法や国際関係、戦後日本の政治や行政など、幅広く出題しました。また、中東紛争や裁判官のSNS投稿などの近年の動き、あるいはその背景にある歴史的な展開など、多角的に出題しています。これは、科目としての「政治」の知識を、現代の動きや歴史的な流れの中で、どのように応用的に理解することができるかを測るという目的があります。政治とは、人類の歴史の中で形成されたものであり、かつ、「政治」は世界に広がっています。教科書の先にある現代社会、世界の国々、そしてその歴史に幅広く目を向けて学習することが肝要です。そうした視点を持つ学生こそが、大学入学後に大きく成長すると考えています。

«政治経済（経済）»

政治経済（経済分野）は、高校の教科書と一部用語集・資料集に準拠した経済分野の基礎知識と論理的思考力を問うことを目的としています。基本的な用語や理論に加え、一部に最近の社会情勢に関わる時事問題や図表読解を含めることで、現実経済を客観的に分析できる力を評価します。本学のアドミッションポリシーに基づき、自ら課題を見つけ、考え、解決に導く意欲と能力を備えた学生を選抜することを狙っています。

【地理歴史】

出題内容は日本史2題、東洋史1題、西洋史1題、歴史地理1題である。最大の特徴は多くの入試問題はマークシート方式であるが、地理歴史は記述方式であることである。出題内容は教科書準拠であるが、その範囲内において客観性や批判的分析能力を判断しようという意図がある。文章を書く場合には、多くの歴史的事実を結び付けて書かなければならないが、客観性が発揮できなければ主観的な文章になり、合格点を取ることは難しくなる。また歴史的事実をそのまま羅列するだけでは平板な記述になってしまう。自分なりの視点から歴史的事実を編成しなければならないため、批判的分析能力も図ることができる。

【数学①】

«教科書を中心にした試験対策を»

「数学Ⅰ」と「数学A」の両科目の分野を、(1)「数と式」、「二次関数」、(2)「場合の数と確率」、「集合」、「データ分析」、(3)「図形と計量」と「図形の性質」というように大きく分けています。問題の範囲に偏りがないように出題しています。

教科書レベルの問題がほとんどであり、教科書の内容を十分に理解することが最も良い試験対策となります。教科書の内容を理解するとともに、標準的な問題集を解くことで、実力がアップすることでしょう。図形の問題や文章題など、教科書には例題が少ない問題も出題していますが、難易度は教科書レベルを想定しています。

A日程ではマークシート方式、B日程では記述式となります。マークシート方式は本学特有の解答方式ではなく、共通テストなどに準拠しています。B日程の記述式では、マークシート方式では解答できない式やグラフを

描く問題や言葉で説明を書くような問題を出題することがあります。

試験対策の勉強をするときはノートにしっかりと解答に至る手順も含めて記述するようにしましょう。例えば、図形に関する問題であれば、大きめに図形を描くなど工夫してみましょう。計算問題では途中経過の式を省略せずに丁寧に書きましょう。丁寧に書くことによってミスが少なくなり、記述式の問題に対応できるようになります。さらに、マークシート方式の問題においても細かいミスが減ることでしょう。

【数学②】

経済学部および観光まちづくり学部では、社会課題を多角的に捉え、論理的、客観的、実証的に政策を構想する力が求められます。そのためには、現実の出来事を数量的に表現し、二変数間の関係や変化を読み解く数学的な素養が不可欠です。昨年度の入試問題では、複利計算や景気の波、都市の人口推移、コインを投げた場合の期待値・分散ような確率的事象などの現実的なテーマを題材に、微分、数列、三角関数、ベクトル、指数・対数、確率分布と統計などの知識を活用して考察する力を評価しました。これによって、政策立案の基礎となる数理的思考力を幅広く問うという意図で出題しました。